

人の一生は重き荷を負ふて
遠き道をゆくが如し
可し急ぐ可や

ては、横濱に於て、桑名、肥前、又佐伯と所有せる地を割して、一小作爲を補助し、其の概略を、手配はしの養蠶技術の發達と提高の爲め、開拓殖産せしむ。適當なる者を選び、補助金を支給し、之を大府長官、藩知所へ入所せしむる。若くは、東南兩橋に於ても、原野を開墾せしむる事業を起す可きものも、養蠶講習所を都内に設置して生徒を養成すると同時に、養蠶巡回教師をして、各方面に巡回教授せしむべし。

△三島所に遊園、種畜園、竹所を設け、多からんとする。盛衰期に方りて、偶々バスの駛來したる爲、甚大の打撃を興へて遂に青馬車交通は勿論一般の商業停止するの已ひなきに至れるも、今長崎陸園の狀況を査するに、農家に過繁する組織は頗る多量にして今日迄に賣却したる高は漸く其六分に過ぎ乍ら僅残りの四分は即ち現存するの數處にして如何に少なく見渡るとも三十万石を上らざるべく、前年に比しての増加高に蓋し二十萬石内外なるべし。

祝賀會舉行に就所置當を失ふに依る。
△米國 アラック大學教授一博士日本人發明の金針に就て專心研究に従事。
△米加 互惠條約案で關稅差對講の爲米穀大統額は臨時議會召集に決せり。
△廣藏 首相ハ伯爵辭職直ちに職務され現藏相コウゾフ氏之が接任に決す。
△伯爵 辭職の原因不明なれど裏面にハ舊保黨の反對ありとの云ふ。
△擔任 コ氏は前年我蘇公と哈爾賓にて會見の入任を喜び極楽に來し人也。

十三年に於ける大豆産額は一昨四十二
 萬本金二千萬圓を模範に信託 找外 申
 年に比し收穫高騰し多量なるは其實情作
 殊銀行業務等を營業目的とし上り振起さ
 煙草 南左衛門 店 三
 可仕候

たりしこと亦一因なるべし。雖も全く
種骨反則の増加之結果生れずとも、想
に一時年々増大の出額に驚愕を來らし
外、適に其買付に競争せし爲め相場日
に増し騰はす。遂に大阪關と極の買買
者相互とも少からず痛手を受け續く類
縁の倒産を見るに至りたるも、而も農民
は前年に例なき高直に賣却し其利を得
ること、故からす左れば次年一層の利益
を得んものと作反則を擴大したれば、前
年に比し其收穫高に於て意外の増額と
爲りたるが、今長春縣に於ける四十一年
十月以來の暴落高を見るに

○此の政治趣味は保守的對外政策
は親俄的傾向を有する者と觀制する。
△英國、下院海軍豫算を討論し豫算制
減の計畫は大多數にて否決された。
△駐清、露公使コロストワツ氏
被殺案の風説ありて哈爾濱電報す。
△南阿、前總督が刺英國上院改革に付
温和なる説を出せし自由黨不辭耳。

文苑

◎鷄林集（五）
雲の（時下）安東花堡園寄
草の餅踏ひすぎてかたふなり成り海
某多額の株式を引受くべき内約あら

計 七十八萬七千五百一十八石
自四十二年十月 發 送
●大邱驛の改築
大邱驛改築に
結^ひ立^て髪^を別^にに^て光^澤の^よし
英^石も入^りと^り商^をる^らひ

至四十二年二月 發 送
至四十二年三月 發 送
至四十二年四月 發 送
至四十二年五月 發 送
至四十二年六月 發 送
至四十二年七月 發 送
至四十二年八月 發 送
至四十二年九月 發 送
至四十二年十月 發 送
至四十二年十一月 發 送
至四十二年十二月 發 送

至五ヶ月間の總數量と四十三年十月より今年四月二月底の總數量を對比するに、**△消費**
が顯著に減へし回答は表面露骨當分の角力の宿もはれなや
はる程減少自立つ者もし

被するに實に十萬千九百四十九石の増の要求全部を承認せし形式を與せしむ
 加ふとし而して大豆に付ての増加高は△區區　が裁判の主眼たる本事實に就
 獄境りし日和つきは白々と

はらへらさむと馬に跨ぎ、
燈のはなは一り見て、もよし
證のひまをくもる鐘の音
如し
「れ置々々」と庭には再び男の聲して

A black and white illustration of a person in traditional Japanese clothing, possibly a kimono, sitting or kneeling. The person is wearing a patterned garment with a dark, possibly fur, collar. The background is plain white.


「私ぢや、ちよと頼みたら」
逐れ聞き覺けなき聲、衛兵衛は坐し
驚き、愈ゝ不審し、た道の横に目も
付くれは、れ道は只役目大事と耳も傳
けず、ちつと構はれたる身の周圍に、四
し難き威は備はりて、牡丹は稚子なが
ら花に王たる徳ありき

床には千利休の消息、芍薬の花、数
葉、炭の香深く籠りて、障子の棧に主
の心驚する如し、國尾は正徳、相伴は
徳兵衛夫婦、れ連ひは道と決りて
手鞠の宗匠は六十五六の老人、扇紗摺

第三十四回

召使れ初

黒法師



鮮かに、茶は山崎宇治の銘物、特に
校地より取り寄せたる別働の味は格別
なり

ものか、もしやと以思へど春來れど
花も咲く、女の十六は花の盛りなり
深く約束したる人にてありて、今

一箱賣は破損瓶一切御引替申さす候
 一箱(四打) 金五圓貳拾錢
 一打(一打) 金壹圓五拾錢
 一打(一打) 金壹圓五拾錢

ばきつとしてゝあなれに答へさせ
 、この庭前へれ入りたされたでこ
 りまする
 誰の許可を受けかでもないが、折入
 てうなな力盡しを轉せねばならぬ事
 つて、先刻よりこの燈籠の陰に隠れ
 つた、まづは「告せ」
 何事も聞きませぬ、すぐ御歸りなさ
 ませ
 た燈は懐しさうな顔だもせきり
 だ、膝に無慈悲を申すものではない、
 だが、公女とて更つて、密々

大日本麥酒株式會社
 京城特約店一同

耳鼻咽喉頭頸部専門
 氣管氣管枝病
 診療時間
 午前自九時至十二時
 午後自二時至六時
 日曜祭日午後二時迄
 京坂本町二丁目
 石田耳鼻咽喉氣管病醫院
 前京都醫科大學耳鼻咽喉科教授室長
 前民部省環境衛生局呼吸器科部長
 石田
 電話一七〇九番

「御用あらば何故正しう執次を頼みなされませぬ、あなれ様とはござりまする、只今は當家召使ひ、自分の身体で日はござりませぬ」

「それは存じ居る、ぢやが今日の混雜執次を頼むども、快く御面は仰るすまじきを承け、此とこれへ附ひ参つた」

「ならば何故それ待ちなされませぬ」と執次は一歩も貸すことなく「當家御用」の邊くまで、お待ち遊ばすが當然でござります」

「所が左様に優長らしくして在られぬ」と佐十郎は聲をひそめ「今日は當家へ珍事が来るといふ、眞か」「何事も聞かませぬ、御用あらば執次を持て、御仰せなされませぬ」

よせ意注に紙包此

來船
アイボリー
品切れの處
彌々着荷

アイボリー石鹼

下さい云ふて来る客へいさ差出す偽せ物
澤山あり御要心／＼

製造紙幣あるは
眞の紙幣ある所以
偽せアイボリーの紙幣
は眞のアイボリーの眞價
知らむる所以

欺かむ、勿れ

安きアイボリーと稱して
眞品欺惑せり
類似品は肌を荒し清洗分
の泡もなく人身に害あり



廣 告

●生徒募集

●本科技藝專修科及專科各若干名募集
●申込期限 四月七日
●新學年授業開始 四月六日

京城女子技藝學校
(電話一七八九)

●四月五日より新設の第一學期生徒二
十五名及第二學期以上補充生各若干名
募集(申込期限四月五日迄)

京城夜學校

斜にアイボリー石と日本文字を記
すは眞正の舶來アイボリーなり

來ル四月三日(土曜)三日間
三期玉突競技大會
會場旭

●賞金一圓〇出直五十錢
●東京本町二丁目

京城南山町二丁目(天眞樓隣)
齒科醫 檜崎東陽

電話千三百六十號

-273-

-274-

電話九三三
電報掛(水)

店 店 店 店 店 店 店 店 店 店 店 店 店 店 店 店

● 渡に船
旅行に仁丹

▼ ツレ頭痛と言ふ時
▼ ツレ目眩と言ふ時
▼ ツレ嘔氣と言ふ時
▼ ツレ腹痛と言ふ時

眞先に御役
に立つは
屹度
仁丹

消化と
毒けし

JINTAN
ジンタン
仁丹

仁丹一粒！
願い、氣持！

私には、つし
轉に金丹を
用意します

房藥井新 三通門太南城京 店理代鮮韓